

授業科目(ナンバリング)	博物館情報・メディア論(CB213)			担当教員	小泉 優莉菜		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>テーマ：博物館における情報及びメディアの利活用 博物館における情報提供の方法論について主に学ぶ。近年のメディア機器の性能向上によって、以前よりはるかに多くの情報伝達・情報把握が可能となっている。その中で、博物館が発信できる情報に着目し、博物館情報を扱うことのできる知識の涵養と、メディア機器を利用した情報発信の手法について学ぶことを目的とする。</p>							⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	多様なメディアを活用し、基礎的な広報・普及活動を実践することができる。					課題レポート	40%
情報収集、分析力	博物館における専門的知識を取得し、博物館の情報機器、広報及びメディアについて説明できる。 また、授業内で実施するプレゼンテーションによって、実際に様々なメディアを用いて他者に的確な情報伝達が可能となる。					確認テスト プレゼンテーション	10% 50%
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>評価は、授業内小レポート 40%、プレゼンテーション 50%、確認テスト（授業態度）10%の配分で行う。 第 13 回～第 15 回には、学生が主体となってプレゼンテーションを実施する。発表は、受講人数に応じて発表者が変化するが、概ね 7～8 人のチームで構想を練り、様々なメディアを使用して 1 チーム 7 分のプレゼンテーションを行う。（準備 1 分、発表 5 分、質疑 1 分）テーマに関しては、第 11 回授業時に通達する。フィードバックは、チームごとに発表後に口頭で行う。 授業内小レポートは、毎回授業終了後に実施する。授業内容を明確に理解しているか、正確に記述しているかを問う。</p>							
授業の概要							
<p>授業は、パワーポイントを使用した講義形態を主とするが、受講者が主体となって行うグループ学習およびプレゼンテーションも実施する。また、毎回授業時にレスポンスによるアンケート（簡単な問題）、各授業終了後に小レポートを行い、学生証のタッチとレスポンスへの回答、小レポートへの回答の 3 つの方法を用い出席確認を行う。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は 180 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書： 特に指定なし。毎回の授業にてプリントを配布。 参考書： 第 1 回講義内で紹介する 指定図書： 稲村哲也／編著 近藤智嗣／編著、『博物館情報・メディア論』、放送大学教育振興会</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>博物館学芸員課程の必修科目であり、博物館概論や生涯学習概論、博物館資料論などの内容を踏まえて受講してほしい。また、授業中の私語や指示の無いスマホの使用、理由のない遅刻・途中退中は認めない。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	ガイダンス 博物館における情報とメディア	・シラバスの説明 ・博物館における「情報」と「メディア」の必要性について学ぶ。	予習：博物館を見学し、情報機器を見学する。
2	情報・メディアの歴史	なぜ「情報」を伝え、知ることを人は求めるのか。そもそも「メディア」とは何なのか、ということについて、世界と日本の変遷を史学的な観点から理解する。	復習：情報・メディアの歴史について、授業内で取り上げたキーワードの内容確認。
3	博物館情報・メディアはどのように発信と活用がされるのか	・資料のドキュメンテーションや、データベース化について学ぶ。 ・資料がどのように学習利用されるのかについて、事例を元に理解する。	復習：博物館のドキュメンテーションや教育への利用について、授業内で取り上げたキーワードの内容確認。
4	デジタルアーカイブについて	記録を作成することや、それを情報として残していくことについて、デジタルアーカイブではどのような方法があるのか理解する。	復習：デジタルアーカイブの方法について、授業内で取り上げたキーワードの内容確認。
5	デジタルアーカイブの活用	博物館が実践する様々な広報手段について解説する。学術的な活用についてだけでなく、デジタルアーカイブを活用した仮想空間の博物館についても実際にアクセスして体感する。	復習：デジタルアーカイブの仮想空間について、授業内で取り上げたはそう博物館について体験する。
6	第一回～第五回の振り返り	ここまでの授業の振り返りや、リアクションペーパーなどで寄せられた質問事項への回答を行う。	復習：第一～五回の授業内容を見直し、疑問点について明確にしておくこと。
7	博物館の情報の管理と発信	・博物館が情報を発信する意義について説明するとともに、危機管理についても伝える。 ・ネット環境を活用した発信方法について、事例を覚えながら理解する。	復習：情報発信と危機管理について、授業内で取り上げたキーワードの内容確認。
8	博物館が守るべき知的財団	・博物館が遵守すべき、知的財産の保護について理解する。また、著作物やそれぞれの個人情報などをどのように保護するべきなのかについても概観する。	復習：知的財産の保護について、授業内で取り上げたキーワードの内容確認。
9	博物館情報・メディアの課題①	博物館の資料がどれだけ活用されたのか（アクセス評価）について、覚える。	復習：アクセス評価について、授業内で取り上げたキーワードの内容確認。
10	博物館情報・メディアの課題②	アクセス評価に関わるデジタル化とドキュメンテーションについて理解する。	復習：デジタル化とドキュメンテーションについて、授業内で取り上げたキーワードの内容確認。
11	・第七回～第十回の振り返り ・総括（館種別情報メディアの活用傾向）	博物館・美術館・自然史博物館・動植物園・水族館など、館種別の情報メディアの導入事例を概観することで、現在の博物館における情報・メディアの課題を探り理解する。 ※グループディスカッションを行うグループ決めも行う。	復習：第七～十回の授業内容を見直し、疑問点について明確にしておくこと。
12	博物館の出版活動 展覧会計画の立て方	展覧会図録や年報、紀要などの出版・印刷物の作り方、および展覧会計画の立て方を覚える。また、グループワークを実施し、発表の企画案を検討する。	予習：展覧会図録や年報、紀要などを確認すること。
13	メディアを使用した情報発信の実践Ⅰ	これまで習った様々なメディアを実際に使用し、自分が学芸員になった場合を想定し、展覧会に関する情報発信についてグループディスカッションし、一つの企画にまとめる。	予習：プレゼン資料に必要な参考図書・資料を収集する。
14	メディアを使用した情報発信の実践Ⅱ	纏まった企画をプレゼン資料として各自分担し、資料を作成する。	予習：プレゼン資料の完成。
15	メディアを使用した情報発信の実践Ⅲ	各グループによるプレゼンテーションを行い、発表内容について相互評価を行う。	予習：プレゼンの練習。